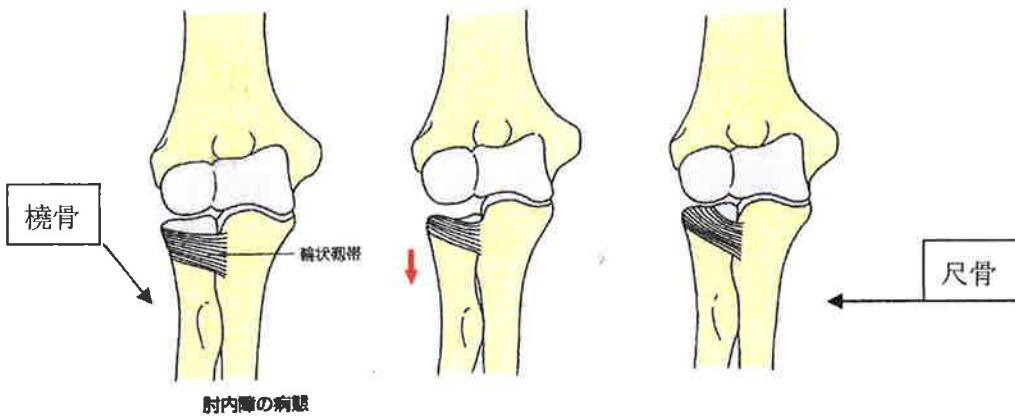
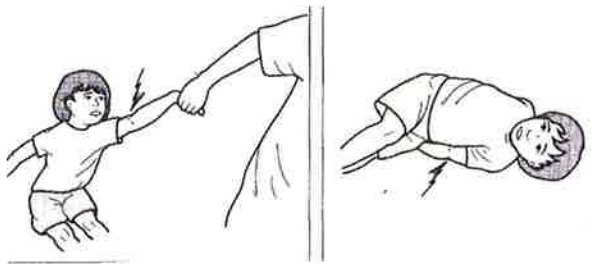


しょうにちゅうないしょう  
小児肘内障

本症は2～5歳までの幼児によくおこる障害です。お母さんが、手または前腕を不意強くひっぱったり、子供どうし遊んでいて転んだりした時急に泣き出し、手、肘を動かそうとしません。どこが痛いのかと聞くと、肘以外に前腕（うで）や手関節（てくび）と答える場合が多く、お母さんが、あわてて走って来られます。よく見ると手や肘にかすり傷がなく、はれもありません。手指や手首もよく動かすこともできますが、肘を動かせると痛いために泣きます。肘には橈骨（とうこつ）を固定している輪状靭帯（りんじょうじんたい）があります。肘内障とは、輪状靭帯から橈骨が抜け、脱臼する病気です。幼児の場合は、輪状靭帯がゆるいために脱臼しやすいのです。治療は、簡単な整復によってすぐ治すことができ、痛みを残すことなく肘をよく動かせるようになります。



\* 注意事項



- ① 小児を持ち上げるさいは、前腕をもたせないよう注意する
- ② 急激に手を引っ張らないよう保護者に注意する